

今年の教区の目標

いのちの輝きは
聖性の光
救いの泉

〒902-0067 那霸市安里3-7-2

カトリック那霸教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バーント司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2024年9月1日 (毎月1日発行) カトリック那霸教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第790号 (9月号)

2024年サマーキャンプ

小学生：8月2日（金）～4日（日）、中高生：8月9日（金）～11日（日）

サマーキャンプに関わってくださったすべての方へ

2024年のサマーキャンプに感謝！！毎年、夏休みが来ると、私たち那霸教区の信徒はサマーキャンプの準備をします。2024年の今年は「祈り…未来に向かって」をテーマに掲げて準備をしました。

このテーマは教皇様からの呼びかけによって選ばれました。教皇フランシスコは、2023年を第二バチカン公会議の成果である文書をじっくりと味わう年とした後、2024年を祈りの年とするよう求めました。2025年の聖年への準備に向けて、2024年は個人的な祈り、そして共同体としての祈りを中心据えるよう、各教区は招かれています。そして、私たちのウェイン司教様からの招待手紙でも、「…サマーキャンプの時間も、私たちの子供たちの信仰教育の不可欠な部分であると考えられます」とあります。

教皇様の呼びかけと司教様のメッセージに耳を傾けて、教区内のすべての各小教区に子どもたちへの招待状と申込書を送り、サマーキャンプへの参加を呼びかけました。

今年第55回サマーキャンプは8月2日（金）から4日（日）までの小学生は23名、8月9日から11日までの中高生は21名の子供たちが参加して行われました。

今年のサマーキャンプの責任者として、私たちのウェイン司教様、押川名誉司教様、司祭、シスター、那霸教区の女性の会の方々、米軍基地内の信者の方々、全ての信徒の皆さんとの愛、祈りそして支援に心から感謝したいと思います。今年のサマーキャンプを成功させるために協力してくださった皆さま、本当にありがとうございました。

また、サマーキャンプに参加した子供たちや付き添いで来られた保護者の皆様にも感謝申し上げます。来年のサマーキャンプ（第56回 聖年2025年「希望の巡礼」）でお会いできることを願っています。

さらに、このサマーキャンプの運営に協力してくださった那霸教区の青年グループにも感謝したいと思います。

最後に、今年のサマーキャンプが無事終了して、楽しく安全なものとなるように導き、私たちを守ってくださった神様に感謝します。

2024年8月18日 サマーキャンプ担当司祭 ヨゼフ・ブイ神父





Highlights of Caritas Okinawa Together We Campaign Year of Blessing!

By: Mercy Cristobal - Caritas Okinawa

In behalf of Caritas Okinawa members and volunteers, we would like to thank everyone who participated in this first big event organized by Caritas Okinawa. We would like to thank our guest Bishop Narui Daisuke, SVD of the Diocese of Niigata and also the current president of Caritas Japan for giving the talk on the theme Caritas “Ministry of Charity” The Role of the Diocese and Caritas Japan. Right after the talk a concelebrated Mass followed participated by 150 people from the different parishes.

Representatives from the three different citizens support group that the Church and Caritas Okinawa have been collaborating with also participated in this event.

We also express our gratitude to the Asato Church parishioners for their cooperation as the venue for this gathering.

We hope for your continued support on programs and upcoming projects of Caritas Okinawa.



Talk on Caritas “Ministry of Charity”



Concelebrated Mass



Participation of Children and Youth



Final Hymn: Heal the World



Caritas Okinawa Staff and Volunteers together with Bishop Narui Daisuke, SVD.

私は「人事を尽くして天命を待つ」という格言が好きだ。この格言には宗教がある。ただ神様に願うのではない。自分にできるだけのことは精一杯して、あとは天の判断を待ちましよう。

たゆまない努力の大切さ、努力しても思い通りの結果が出ないときは、神の思し召しだと素直に受け入れることを説いている。長年病気の夫を看病し、その夫を昨年亡くした私の叔母が、今度は自分自身が腰部脊椎狭窄症で大変苦しんでいる。薬の強度を増やしてもあま

り効果がなく、陣痛のように辛いらしいブロック注射をしても一週間しか効き目がない。あまりの苦痛にこのまま余生を生きていよいり死んだ方がいいと口走るありさまだ。

八十代半ば、子どもや夫のために生きてきた人生、残された数年はずなのに、大病に見舞われた。「私は良くなるかね」と姪の私に聞くが何とも答えようがない。「もう年だから良くはならない。

たて軸よこ軸

コザ教会 松堂 康子

人事を尽くして天命を待つ

のイエス様の受難、苦しみを思いながら、天命だと甘受できればいい、そこまで強い自分になれたらいいと願っている。

神様から与えられたこの身体、命に感謝しつつ、命尽きるまで精一杯生きていきたい。

後期高齢者になつて、身体のあちこちが老化していることに気づく。歩行もスムーズでない。この前、背伸びした時に腕が皺でたゆんで、振袖腕になっているのに気づいて驚いた。数十年前、母と老人ホームに親戚を見舞いに行つたときに、廊下に立つて見知らぬお婆さんがやつて来て、私の

いうことを言うのは大変失礼なことは思いつつ、願わくば「人事を尽くして天命を待つ」という生き方ができればという私の願いをこめて。

現状維持かますます悪くなるかもしれない」と非情な返答をする。だからやつてくる苦難への覚悟が必要かと思われる。当人の苦しさを体験していないのでそんなことが言えるし、済まないとは思いながら。

これから私にも、そのような身体的、あるいは精神的な苦痛がやつてくるかも知れない。私はどう対処できるだろうか。十字架上

は身体は自家用車。七十年余も乗り回していたらポンコツになるのは当たり前。時々、修理工場（病院）に持つていって修理（治療）してもらわなくては」と友人と話している。

友人が数名集まると、決まって持ちが今分かる。

腕をつかんで、「姉さんの手きれいね」と言つた。急なことでびつくりしたがあの時のお婆さんの気

2024年 世界難民移住移動者の日委員会メッセージ「神はその民とともに歩まるる」

国連の統計によりますと、現在、少なくとも1億1,700万以上の人々が、戦争や迫害、人権侵害等により、強制的に故郷からの避難を余儀なくされています。その他さまざまな理由で国境を超える移住者の数は2億8,100万人にのぼります。

このような現実の中で、教皇フランシスコは第110回世界難民移住移動者の日(2024年9月29日)に向けたメッセージで、「神はその民とともに歩まるる」というタイトルで改めて私たちに語りかけられました。教皇は、旅する教会とイスラエルの民を重ねながら、イスラエルの民の奴隸状態から自由へと向かう長い旅は、主との最終的出会いに向かう

教会の旅の前表であると述べておられます。主はその旅に同伴してくださるだけではなく、彼らの中におられます。その意味で、苦難の中にある兄弟姉妹との出会いは、キリストに会うことでもあると述べられました。

教皇は、人類が体験しているこの劇的な状況を私たち自身がよく認識し、祈りを通した連帯の精神と、これらの兄弟姉妹を心から歓迎する態度を呼び覚ますよう呼びかけられました。私たちも多くのいのちを救うために立ち上がり、ともに新しい生き方を始めましょう。

2024年9月29日 日本カトリック難民移住移動者委員会
委員長 山野内倫昭 司教 担当 森山信三 司教



第55回サマー・キャンプ開催

那覇教区の毎年夏の恒例行事であるサマー・キャンプが今年もミッションビーチを会場に開催されました。

8月2日（金）から4日（日）までの小学生は23名、8月9日から11日までの中高生は21名の参加。お手伝いするヘルパーが青年を中心に延べ25人でした。

暑すぎるくらいの天気が続きましたが、健康面への配慮から熱中症や緊急時への対策も万全に備え、信者の看護師さんたちもヘルパーを兼ねて参加していただきました。担当のブイ神父（泡瀬）は各教会の信者の協力も得ながら春から周到に準備を進め、キャンプ経験者である青年たちと共にプログラムを実行しました。

初日は緊張していた参加者も以前から知っている仲間や他の教会からの参加者、そしてヘルパーやシスター、司祭たちともすぐに打ち解け、キャンプの間中ずっと笑顔と歓声があふれていて大きな喜びとなったようです。

テーマである「祈り・・・未来に向かって」に沿った内容の学びの時間では毎回の担当司祭の話を真剣に聞き、考え、意見を分かち合っていました。初日の夜には裏庭いっぱいにキャンドルを並べて作られたロザリオを囲んでの祈りの時間もありました。ウェイン司教、押川司教、各教会から駆け付けた司祭たちによるミサがあり、普段はミサに与る機会の少ない参加者にとっては司祭たちとの出会いも大切な経験になったことと思われます。

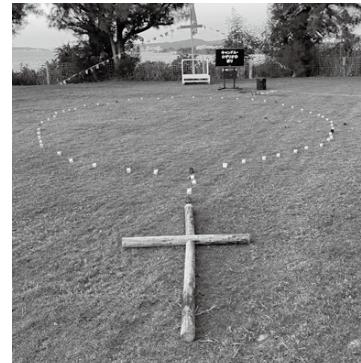
お楽しみの海水浴やゲーム、そしてキャンプファイヤーではフォークダンス等もあり、家庭や学校だけでは経験できないような様々な内容が次々出てきて、スタッフの惜しみない労力発揮に感心させられました。最終日の司教ミサの後は、充実した連日のプログラムを過ごした喜びが分かち合われ、「来年も参加してまた会おう」の約束が交わされました。おかげで全日程を無事に終了できることに感謝します。

「召命のために」として始められた、小さな教会の小さなサマー・キャンプから発展し50年以上も続けられているのは、大きな喜びです。これまでの実りとして司祭・修道者の誕生や参加者同士の結婚にもつながり、信仰生活の大きな助けになっていくことを願います。

最初の参加者の親たちからするとすでにひ孫が参加するほどの年代を重ねてきています。毎回の食事に関しては教区女性の会を中心に献立作成や調理等で物心両面からの多大な支援がありました。その都度の準備やお世話にもそれぞれの教会での下ごしらえや配膳や片付け等に何度も訪れる方もいて、参加の子どもたちや普段触れ合う機会の少ない女性の会同士の交流の機会ともなり、また、壮年の皆さんにも共に様々な面でお世話していただきました。体力的には大変だったようですが、このような機会があることに喜びの声を聞くことができました。

神様の愛と恵みに包まれて大きな事故もなく過ごすことができていること、また、那覇教区の大切な行事として位置づけて開催してくださっている歴代の司教、参加者はもちろん、典礼や教育を担当する司祭団と修道者団、食事をお世話する女性の会や壮年の皆さん、そしてプログラム実行や参加者の世話をするヘルパースタッフの青年たち、さらにはキャンプの前から建物の大掃除やテント張りや片づけ等々、実に多くのご協力があり、皆様のお祈りとご支援があって開催できていることとお礼申し上げます。

山田圭吾（泡瀬教会）



カリタス沖縄「ともに歩むミサ TOGETHER WE MASS」

「ともにケアの文化を」の合言葉のもと、2021年からカリタスジャパンや国際カリタスと連携し“TOGETHER WE”キャンペーンを行って参りました。これまでカリタス沖縄では、貧困者への継続的な食料支援や子供達との環境勉強会やビーチクリーン、傾聴カフェを開催し、気づきと学び、そして行動に結びつけてきました。本キャンペーンも今年で最終年度を迎える、祝福ととりまとめの年に位置づけられています。

そこで去る8月25日(日)安里教会にて、カリタスジャパン担当司教である成井大介司教様(新潟教区司教)をお招きして「ともに歩むミサ TOGETHER WE MASS」を行いました。午後2時から「カリタス～教会による愛のわざ 教区とカリタスジャパンの役割」と題し講話を頂きました。大変印象的だったのは、ウガンダ大虐殺の16年後に現地教会を訪問した際、殺された側と殺した側の民族が同じミサに与っていること(信仰の力が憎しみを越えて感謝の祭儀を成立させる神秘)、海外における教会の“愛の

わざ”は小教区を基本として行っていることなど、限られた時間の中で多くの学びがありました。引き続き成井司教様司式、ウェイン司教様、押川司教様、4名の神父様による「ともに歩むミサ TOGETHER WE MASS」に与りました。共同祈願では、貧困・平和・環境についてオリジナルの祈願文を準備しました。

また、特別編成のカンタ・カトリカをはじめ、ベトナムコミュニティーによる素晴らしい聖歌、閉祭ではマイケル・ジャクソンの「ヒールザワールド」を全員で合唱し、「ケアの文化」が教会を発端に人々に根付くよう祈りました。尚、日頃から教会とカリタス沖縄と連携をとっている「かなさん会」「つむぎの会」「ゆいまーるの会」それぞれの団体代表も参加してくださいました。

安里教会の皆さんをはじめ、本行事の成功にご協力頂きました皆さんに心より感謝申し上げます。今後ともカリタス沖縄へのご理解とご協力をよろしくお願いします。

井出一宏 カリタス沖縄委員会



主式した成井司教・ウェイン司教・押川名誉司教と教区司祭団

海を渡る祈りの響き 2024 へのお招き

8月15日は太平洋戦争終戦を記念し、日本で唯一地上戦が繰り広げられた沖縄の地で平和の祈りが捧げられ、那覇教区長のウェイン司教様も祈りに参加しました。終戦に先立つ約1年前、8月22日には、疎開先に向かう児童784人を巻き込んで1,484人の犠牲者を出した米軍による対馬丸撃沈事件が起こり、今年は事件後80年ということで多くの関係者を集めた慰靈祭が開催されました。沖縄戦終了の日6月23日以降も、南部を逃げ惑う人々を犠牲にしながら最終的に20万人以上の戦死者を出した沖縄戦。

二度と戦争を起こしたくないというのは誰しも同じ気持ちでしょう。しかし、人々の願いとは裏腹に、世界のあちこちで罪のない住民や子どもたちが巻き添えになる戦争が起こっています。沖縄の離島では紛争になったときの対抗措置を本気で考えた設備・人員の配備が始まりました。私たちは平和のために何ができるでしょう…この問への答えは、私たちが安全な生活をありまえと思い続ける限り、出ないのでしょうか。戦争が引き起こす痛みや苦しみに敏感に反応すること、戦争は絶対にいやなこと、平和と愛を大切にする心こそが戦争を回避すると認識することは、必ずしも体験者だけではなく、戦争の悲惨さを感じた人にはできると信じます。そしてそれを伝えていくこともできるはずです。

先の太平洋戦争で日本唯一の地上戦は沖縄でしたが、敗戦の引き金となった広島・長崎への原爆投下は多くの人の命を一瞬で奪い、今に続く甚大な被害を作り出しました。1944年に起こった「十空襲」と呼ばれる那覇空襲の悲劇から、さらに原爆で亡くなった広島・長崎の人たちへと想いを繋ぎ、戦争の痛みを伝え語り継ぐために、「シターと歌い紡ぐ平和への祈り」と題したコンサートをカトリック安里教会（10月9日）、カトリック泡瀬教会（10月10日）、広島のひと・まちプラザ（10月12日）で開催します。沖縄出身の作曲家新垣王敏氏の曲を中心に、新垣先生とゆかりが深い安里教会、泡瀬教会での演奏会を通して、平和を祈念していきたいと思いますので、たくさんの方の来訪をお持ち申上げます。（詳しくはチラシをご覧ください）

白井 朝香 (シター奏者)

2016年に沖縄で初となるシターの公演をした折に白梅学徒隊中山きくさんが絵本に託した「きくさんの沖縄戦」の物語に出会い、沖縄戦のことを知りました。以来毎年沖縄で慰霊のコンサートを開催、平和を祈念する音楽や広島の原爆禍の話を交えながら、互いのことを知り思いやる平和な心を持つことの大切さを伝えてきました。広島・沖縄で歌い継がれている平和の賛歌を合唱とシターと共に紹介します。それぞれの想いに心を寄せるひと時となりますように。

磯崎　主佳（絵本作家）

今、私たちは戦争体験者に直接触れあえた最後の世代となりつつあります。先人たちはあの戦争でどんな苦しみを抱え、何を次世代に繋げたいと願ったのでしょうか。体験者たちの思いを語った絵本と音楽に触れて、平和への思いをつなぐ機会となればありがたいです。

新疆 壬敏 (作曲家)

シャーローム！戦争は人間の仕業 平和は正義の業 愛の実り…沖縄の平和行進で歌われる「命どう宝」は8月6日の広島原爆記念日でも歌われています。戦後80年を迎える今「希望の平和」の中で「赦しあい、赦しあう主の平和を」と歌う、寛容なる平和感が未来への希望となることを願っています。



海を渡る祈りの響き 2024

～シターハ歌ハ、結々重々～

第一回 まことに、平和への祈り～
 1. 旗山・白井 香秀
 2. 長嶺 香織
 3. 宇根 敬子[19H]
 4. 田身 益田

10/9 [水]	10/10 [木]	10/12 [土]
開場 18:30 (開場18:00) 会場 カトリック安里教会 病人の慈悲な心をアピア祭壇 (神祇道場の完成式2.2)	開場 18:30 (開場18:00) 会場 カトリック滝瀬教会 イエスの心懸念 (神祇道場の完成式1.1)	開場 18:30 (開場18:00) 会場 合人社カヌイア(ひ)まとララ マルセラティア(アラクシ) (北極の祭)

お問い合わせ
090-8293-7272(平日)
QRコード
お問い合わせフォーム
QRコード
お問い合わせ
090-5344-6700(平日)
QRコード
お問い合わせフォーム
QRコード
※前券券のお求めは、各公演のQRコードをご利用ください。入場料／一般2,000円(税込2,500円)高校生以下500円
主催／海を渡る折りの駆け公演実行委員会

入場料 一般 2,000 円・当日 2,500 円
高校生以下 500 円

※チケットはカトリック文化センターで購入できます。
問合せ先 090-8293-7276 (宇根敦子)

沖繩平和學習

今年も長崎から中村大司教様と平和委員会の司祭たちが中高生たちを引き連れて沖縄を訪れ、沢山の戦争犠牲者を出した戦績を巡りながら平和学習を行つた。

八月九日の長崎原爆の日の慰靈祭を終え、十日から二泊三日の日程で沖縄を訪問。初日は空

港から嘉数高台 嘉手納道の駆
を経て辺野古へと向かい、瀬嵩
の浜で、海を埋め立て滑走路建
設に反対する地元の方の説明に
耳を傾けた。二日目は対馬丸記
念館や海軍司令壕跡地を回り、
戦争がもたらす惨劇に心を痛め
た。

最終日は沖縄陸軍病院南風原壕群、糸数豪、摩文仁の県立平和資料館と平和の礎、ひめゆりの塔を訪ね、戦争がもたらす惨劇を追体験しつつ、平和への思いを新たにした。

長崎教区



平和学習に訪れた長崎の中高生たち



朝ミサを主式する中村大司教とウェイン司教

司教様、ご訪問
堅信式も、親睦

与那原教会

長を祈ります。堅信を受けたばかり。聖霊のお恵みが大きな力と導きになるでしょう。

まず、若者たち五人が堅信の秘跡を受けたこと。五年ぶりの堅信式でした。小さいときから侍者として祭壇奉仕を務めてきた吉田二郎三。八月五日。

のせいだとは言えません。

そこで、聖クララの祝日、信徒のためにいつも心を尽くしていらっしゃる司教様のご訪問です。堅信式を機に『親睦会』を開催致しました。これも数年ぶりです。修道院の食堂を会場にお借りして、一品持ち寄りの親睦会です。

まず、宮城梢さんの伴奏で「らんよ空の鳥」を明るい声でみんなで合唱しました。そして、「肝がなさ節」が川西康裕さんの歌



三線で、会場に響き渡る素敵なお食事で、歌われ、和やかな雰囲気となつたところで、持ち寄りの手作りデザートやさきやかなお食事で、共に感謝と喜びを分かち合いました。とても楽しい会食となりました。

クレーバー神父様の歓迎の挨拶、ウェイン司教様のこれからの方々の教会についてのお話など信徒一人ひとりが、考え実践していく事が必要だと思いました。

(福地厚子)



司教訪問

首里教会

被昇天の聖母を保護者と仰ぐ首里

教会では、十五日の祝日の前後の主日に司教訪問をお願いしています。

今年は十八日に司教訪問が行われました。

ミサを主式して頂き、小教区が抱える課題について意見交換の場を設けて頂きました。

高齢化はあちらこちらの教会が抱える課題であると思いますが、サマーキャンプ等の仲間と集える機会を通して、子どもや大人たちの輪を広げていけたら良いなと感じました。

(新田千鶴子)

計報

- ◆石川教会
マリア・エリザベト 仲本 百子 様
2024年8月8日帰天 享年83歳
- ◆開南教会
マリア 金城 須美子 様
2024年8月12日帰天 享年97歳
- ◆石垣教会
クララ 大浜 みち 様
2024年7月28日帰天 享年95歳
フランシスコ・ザビエル 玉城 功一 様
2024年8月24日帰天 享年88歳

一日黙想会へのご案内

講 師：デニス神父（真栄原教会）

テマ：より充実を目指して

9月

日 時：2024年9月14日（土）

午前 _____ 午後 _____

9:00～受付 1:00～分かち合い（小グループ）

9:30～司祭の講話 2:00～分かち合い（全体）

10:30～沈黙の時間（個人黙想） 3:00～ミサ

12:00～昼食 4:00～ゆるしの秘跡（終わり次第解散）

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円

聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会

電話：098-945-2354 098-945-8649

那霸教区子どもと女性の権利を擁護するデスク



相談窓口
098-863-2020
火・水・木
13:00～17:00



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日（申込、相談など）

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日（緊急対応含む）

私たちには故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那霸市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail: yasurai@nirai.ne.jp

葬祭の
「やすらい企画」

24時間
受付



～ご遺族の心をもって奉仕する～

そうてんしゃ

葬典社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
098-853-1059

